

2020年12月号より「学ぶ・つなぐ・広げる」を連載しています。インフラの整備・管理を通じて社会に貢献するという重要な使命を果たすため、全国の建設技術関係者は、連携・交流を図りつつ、自らの技術力を向上させ、成長していく努力を積み重ねています。本コーナーでは、各地で進められている様々な取組を紹介していきます。

## 学ぶ・つなぐ・広げる

# 「技術は人なり」 人材育成の取り組み

～令和2年度 静岡県交通基盤部技術発表会～

さいとう ひでたか  
齊藤 秀孝\*

### 1. はじめに

静岡県では、技術研鑽の場として、土木技術職員の技術力向上や人材育成を目的に、交通基盤部技術発表会を開催している。

当発表会は、全日本建設技術協会の御協力を頂き、静岡県建設技術協会との共催により、毎年実施している。

本稿では、令和2年度に開催した発表事例を紹介し、今後の課題と取り組みについて述べる。

### 2. 静岡県交通基盤部技術発表会の概要

#### 1) 実施の目的

当発表会は、平成16年度から毎年行われており、令和2年度で17回目となった。

新たな業務が年々増加する中において、コスト縮減や業務改善の視点で、また事業調査・計画段階から工事・維持管理にいたるまで、様々な工夫した取り組みを現場サイドから広く発信する場として、また、コスト縮減に関する理解・意識啓発、及び職員の技術研鑽の場とするために実施している。

また、同時に発表する担当者にとっては、アカウンタビリティにおけるプレゼンテーション力の向上や、分かりやすい資料作成などの技術力向上を図るため

のものになっている。

#### 2) 技術発表会の体制

技術発表会には、土木事務所等を中心とした各出先機関技術発表会と、交通基盤部全体の技術発表会があり、それぞれを毎年1回程度開催している。

部全体の発表会は、交通基盤部の各出先機関（土木事務所等）で開催される技術発表会において、優秀な成績を収めた職員（最優秀賞受賞者）が出場することになっている。

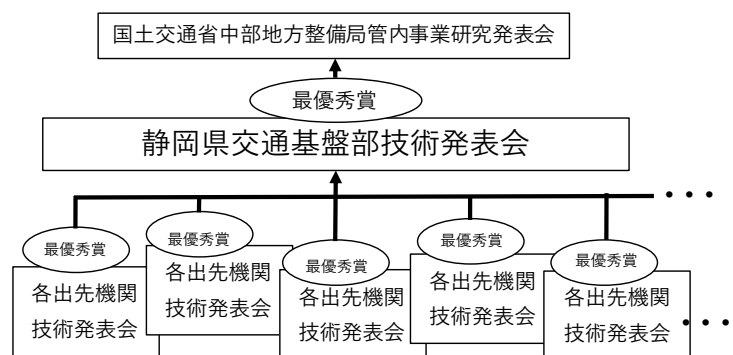


図-1 静岡県交通基盤部技術発表会の構成

#### 3) 発表の審査

審査員は、部の幹部職員5名及び外部関係者として(株)建通新聞社静岡支社長の計6名で構成している。

すべての発表が完了した後に、各審査員は以下の審査項目と配点により、審査・採点し順位をつけ、

\*静岡県 交通基盤部 建設技術監理センター 技術支援第1班長

トータルで得点の多い者から順に最優秀賞1名と優秀賞2名を決める。

【審査項目と基準（50点満点）】

項目Ⅰ：現状の把握（10点）

基準：発表題材における問題点や課題に係るデータ・事例などを的確に把握・収集しているか。

項目Ⅱ：着眼点・洞察力（10点）

基準：把握した現状を分析し、改善が必要な点や、特に重要な点などを鋭く見抜いているか。

項目Ⅲ：独自性・有用性（10点）

基準：発表で述べられた手法や取組は、独自の内容であるとともに、他の現場等での応用、実践が想定されるものであるか。

項目Ⅳ：表現力/発表資料（10点）

基準：発表資料は、要点を抑え、見やすく、分かりやすく、興味を引き付けるものであり、発表者の説明と合致しているか。

項目Ⅴ：表現力/発表者（10点）

基準：的確に時間配分をした上で、しゃべり方や言葉使いが聞き取りやすく、身振り、手振りといった姿勢も適切で、分かりやすく説明できているか。

4) 技術力向上に資する発表や講演

さらに、選出された職員による発表のほか、他の部局において優秀賞を受賞した職員の発表や、国や民間事業者、有識者等に依頼し、時宜を得たテーマによる発表や講演も行っている。

5) 国土交通省事業研究発表会への参画

最優秀賞を受賞した発表者は、次年度の国土交通省中部地方整備局管内事業研究発表会に参加させて頂き、より大きな舞台で発表することで職員自身のスキルアップを図る。

3. 令和2年度における開催状況

令和2年度は、コロナ感染防止対策を講じた集合形式に加え、1部の発表についてはWebによるリモート視聴を併用して開催した。

1) 開催日 令和2年11月17日（火）

2) 参加者数 約250名

3) 参加対象者

静岡県土木技術職員、（一社）静岡県建設業協会会員、（一社）静岡県建設コンサルタント協会会員、（一社）静岡県測量設計業協会会員、（一社）静岡県地質調査業協会会員ほか

4) 発表項目

発表は、交通基盤部の出先機関毎に開催された技術発表会において、優秀な成績を収めた発表者を選出し9題の発表を実施した。

また、外部からの特別講演として、岩手県職員を講演者としてお招きし、東日本大震災における復旧事業に関する特別講演を行い、参加者の技術研鑽につなげた。

さらに、農業土木等の他部局との技術交流を図るため、経済産業部農地局の職員による特別発表を実施した。

表-1 令和2年度交通基盤部技術発表会次第

題 目	発表者
① 太平洋岸自転車道の走行環境整備 ～誰もが迷わず安心して快適に～	袋井土木事務所 企画検査課
② 浚渫土の有効利用について	田子の浦港管理事務所 整備課
③ withコロナ時代の現場見学会	島田土木事務所 工事第1課
④ ICTによるサービス向上 ～みなとコンシェルジュへの道～	清水港管理局 企画整備課
⑤ 美しいものはより美しく、そうでないものはそれなりに ～事業効果が伝わる写真の撮り方～	熱海土木事務所 企画検査課 維持調査課
⑥ 明治から令和へつながる想い ～100年の歴史と技術を継ぐために～	下田土木事務所 維持管理課
⑦ ICTを活用した災害メカニズムの可視化 ～木を見て森を見ず 災害復旧からはじまる「建設DX」～	富士土木事務所 工事課
⑧ ICTを活用した事故リスク低減の取り組み ～(主)豊橋湖西線の事例～	浜松土木事務所 都市計画課
⑨ (主)熱海箱根峠線災害復旧における仮設信号機の活用 ～限られた人材で早期供用開始を実現～	沼津土木事務所 工事第2課
特別講演① 平成23年3月11日東日本大震災における道路啓開の対応状況について	岩手県 県土整備部 砂防災害課
特別講演② 東日本大震災の復旧復興工事について ～大槌川・小鏡川水門防潮堤工事～	岩手県 沿岸広域振興局土木部 復興まちづくり課
特別発表 農道整備事業における軟弱地盤対策工法の選定 伊達方公文名3期地区の実例	中遠農林事務所 農地整備課



写真-1 発表会の状況 (Web配信画面)



写真-2 発表の様子

## 5) 発表内容

発表内容は、職員が日頃従事する業務を題材として採り上げているものがほとんどである。

どのようなテーマを選ぶかということも、発表者の個性であり、敢えて統一したテーマを決めずに自由に発表できることを基本としている。

この中で最優秀賞を受賞した発表（発表名：「ICTを活用した災害メカニズムの可視化～木を見て森を見ず 災害復旧からはじまる「建設DX」～、発表者：平井 良房氏、現職：静岡県 交通基盤部 道路保全課 主査）は、令和3年度の国土交通省中部地方整備局管内事業研究発表会に参加し、審査員特別賞を頂くことができた。

## 4. 発表者・視聴者等の感想

発表者や視聴者等から寄せられた感想を紹介する。

技術力向上に対して有効であるという意見が多いが、その反面として通常業務の忙しい中で苦労したという意見も少なくなかった。

### 1) 発表者からの感想

- ・プレゼンテーション能力を高めることができた。
- ・日頃の業務に対し、新たな気づきを得ることができた。
- ・事務所代表者として使命感をもって発表することが、自身の技術研鑽につながった。
- ・業務の多忙な時期と重なり、資料作りのための時間が少なく苦労した。

### 2) 視聴者等からの感想

- ・他事務所の様々な取り組みを知ることができた。
- ・若手の発表に加え、熟練職員の発表を採り入れてほしい。
- ・若手育成のためにも、発表会に参画できるゆとりと時間がほしい。

## 5. おわりに

住民ニーズの多様化への対応等、土木技術職員が担う業務が増加し、現場において自らの技術力を研鑽する機会が減少していることから、経験や情報を共有できる本技術発表会の取り組みは、有効な人材育成のための手段であると考えている。

今後は、コロナ禍によるリモートワークの普及や生産性向上に向けた建設DXの進展など、変化し始めている働き方にも対応できる技術職員を育成していけるよう、開催方法や発表内容等を工夫し、改善していきたい。

最後に、本県の技術発表会の発展に多大なるご協力をいただいている全日本建設技術協会に、改めてこの場を借り御礼を申し上げたい。

【著者紹介】 齊藤 秀孝 (さいとう ひでたか)

平成2年静岡県庁入庁（土木職）。平成29年袋井土木事務所掛川支所副班長を経て令和3年より現職。